



## 都指定の美術工芸品 所在調査へ

12月6日の都議会一般質問で、遠藤守都議は、都指定の文化財（美術工芸品）の所在について質問しました。

国宝の一部が所在不明になっているとの報道を受け、遠藤都議は、都が文化財指定した絵画・考古資料などの美術工芸品 273 点の所在を都教育庁に確認。

その結果、所在が直接確認されているものは全体の約 25%にとどまり、調査も 15 年前に行われただけでした。

そこで、遠藤都議は、早急な所在確認と合わせて、今後の定期調査の必要性を指摘しました。

都はこの提案を受け、早急な現状確認と定期的な調査の実施を約しました。

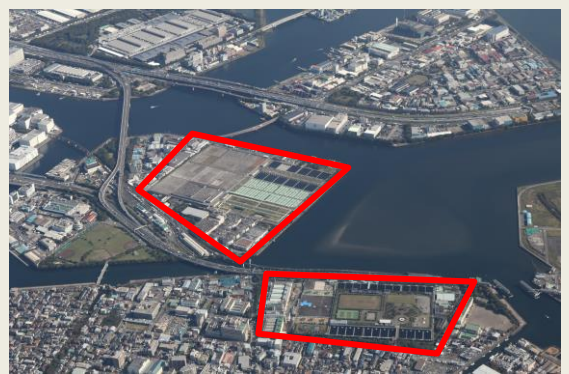
写真は、東京ミッドタウン（旧防衛庁跡地）で発見された江戸時代の地鎮具。純度の高い金でつくられた金銭（㊤）と、表裏に精緻な文様がある青銅輪宝（㊦）は優品。平成 25 年 2 月、都文化財に指定【写真提供＝都教育庁】

## 「森ヶ崎水再生センター」の地震・津波対策 急げ

同じ一般質問のなかで、遠藤都議は、首都直下地震に備え、都内にある 13 の水再生センターと 85 か所のポンプ所の耐震性と耐水性の確保を訴えました。

なかでも遠藤都議は、大田区内の森ヶ崎水再生センター（写真赤枠）は、区部で発生する下水の約四分の一を処理している日本で最大規模の水再生センターであり、東京湾に面していることから、ここが被災すれば、都民生活に与える影響は甚大だとし、早期の対応を求めました。

これに対し、都下水道局は、平成 31 年度までに、すべての施設の耐震化を図るとともに、津波に備え、西側施設（下側赤枠）の周辺をすべて囲う止水壁を平成 28 年度までに整備する考えを示しました。



日本で最大規模の森ヶ崎水再生センター。被災すれば被害は甚大【写真提供＝都下水道局】

■一般質問ではこれら3テーマ以外に、関東大震災や東京大空襲という歴史的惨事と教訓を後世に残すために造られた「東京都復興記念館」（墨田区横網町）の展示手法の見直しについても、具体的な提案を行いました。